全日本学生テニス王座決定試合

東北地区大会冊子

目次

2-16：大会規約

2. 出場資格
3. 組み合わせ
4. 入れ替え戦
5. 試合形式
6. 使用球
7. 審判
8. コートの使用
9. オーダー交換
10.選手出場順位
11.オーダー規約
12.順位決定
13.学連役員の派遣
14.その他
15.規約の変更

注意事項

・前書き
・選手
・コートレフェリー
・審判
・ベンチコーチ
・応援
・ペナルティー
・使用コート
・使用ボール
・オーダー交換
・MTO
・トイレットブレーク
・雨天の際の処置
・日没・水没の際の処置
・２部リーグ以下の試合日程について
・試合結果の報告について
・異議申し立て及び、処罰について
・お問い合わせ先

大会規約

2025/08/21 作成

1. 日程

・原則として開始時期は前年度の主将主務会議にて発表する。

2. 出場資格

・東北学生テニス連盟に(以下、本連盟)に登録し、かつ以下の条件を満たすすべての選手が出場資格を有する。

(1) 各個人出場(試合に出ていなくても学校単位での出場扱いとなる)を 1 年度につき 1 回までとし、4 年制大学の場合は最高 4 回まで、医学系学部生、短期大学生の場合はそれぞれ 6,2 回までとする。

(2) 転校や再入学をした者については、移籍前の地区でリーグ戦が開催された場合、移籍後同年度内に東北地区で開催されるリーグ戦の試合に出場することができないが、移籍前の地区でリーグ戦が開催されていない場合は、移籍後同年内に東北地区で開催されるリーグ戦の試合に出場することができる。

3. 組み合わせ

・組み合わせおよび対戦順序は、前年度順位に基づきそれぞれ次の表に定めるものとする。

一試合目	第 1 位-第 3 位	第 2 位-第 4 位
二試合目	第 1 位-第 4 位	第 2 位-第 3 位
三試合目	第 1 位-第 2 位	第 3 位-第 4 位

4. 入れ替え戦

・男子・女子の最下位校は各々次の部に於ける第 1 位校と入れ替え戦を行う。

5. 試合形式

・各試合形式は、ダブルス・シングルスともにベスト・オブ・3 タイブレークセットマッチとする。

・男子の試合は 1 対戦のポイント数を複 3、単 6 の合計 9 ポイントとし、ダブルス第 3 位から順次第 1 位、その後シングルス第 6 位から順次第 1 位の順序で試合に入る。

・女子の試合は 1 対戦のポイント数を複 2、単 3 の合計 5 ポイントとし、ダブルス第 2 位から順次第 1 位、その後シングルス第 3 位から順次第 1 位の順序で試合に入る。

・レストの時間に関しては 60 分未満の場合は 30 分、60 分以上 90 分未満の場合は 40 分、90 分以上の場合は 60 分とする。

6. 使用球

・試合球は DUNLOP FORT とし、原則としてボールチェンジは 9-11 で行う。

7. 審判

・原則として全試合 SCU で行う。SCU を出す順位は以下のとおりである。

男子１部	順位が上の大学	ダブルス	第３位、第１位
		シングルス	第５位、第３位、第１位
	順位が下の大学	上記以外	
女子１部	順位が上の大学	ダブルス	第１位
		シングルス	第３位、第１位
	順位が下の大学	上記以外	

男子２部以下	コート選択権所有校	ダブルス	第３位、第１位
		シングルス	第５位、第３位、第１位
	相手校	上記以外	
女子２部以下	コート選択権所有校	ダブルス	第１位
		シングルス	第３位、第１位
	相手校	上記以外	

・なお、入れ替え戦の審判については上記の２部以下のルールに則るものとする。

・また、両校もしくは片方の大学が審判を出すのが困難な状況の場合(人数が足りない等)は、両校の同意のもと審判をつけなくてもよいものとする。

8. コートの使用

・原則としてコート選択権所有校または本連盟の指定するコートを使用するものとする。

・コート選択権所有校は大会前に本連盟が決定し、使用するコートはコート選択権所有校が責任をもって手配しなければならない。サーフェスは問わないが、使用面数は原則として最低３面とする。ただし、使用コート全て同じサーフェスである必要がある。

・入れ替え戦によって替わった部もこの一環とする。

・入れ替え戦は上位校に従うものとする。

9. オーダー交換

・ダブルスのオーダー交換は原則として試合開始時刻の 10 分前に行う。

・シングルスのオーダー交換は原則としてダブルスの試合の終了後、即座に行う。

10. 選手出場順位

・東北地区の順位に従って、出場順位が高いほど、ポイントが大きくなるようにする。
・全日ポイントの順位は無視するものとする。

11. オーダー規約

(1) 本規約第 12 項に基づき、出場順位は高いポイントを有する選手から高い順に入る。同等のポイントを有する選手同士についての順序は問わない。
(2) 第２戦以降に新たに選手を入れる場合、入る場所は(1)に従うものとする。
(3) 単複２種目で同じ選手が２回出場することはできるが、同じ種目に１人の選手が２回出場することはできない。
(4) ダブルスのオーダーも合計ポイントをもとにシングルスと同様に考える。
(5) 人数不足の際は順位の高い方から選手を入れていく。

12. 順位決定

(1) 勝数の多い方を上位とする。
(2) 同勝数校が複数になった場合
① ２校が同勝数のとき
・直接対決の結果勝者を上位とする。
② ３校が同勝数のとき
Ⅰ. 総勝ちポイント数の多い大学を上位とする。これによりついた順位の中でまだ同位校があれば①へ戻る。それでもなお決着がつかない場合はⅡを適用する。
Ⅱ. 総取得セット数の多い大学を上位とする。これによりついた順位の中でまだ同位校があれば①へ戻る。それでもなお決着がつかない場合はⅢを適用する。
Ⅲ. 取得ゲーム数の多い大学を上位とする。これによりついた順位の中でまだ同位校があれば①へ戻る。それでもなお決着がつかない場合はⅣを適用する。
Ⅳ. 以上によってもなお順位が決定しない場合は本連盟の決定に基づき再試合を行う。
(3) 入れ替え戦後の順位は、対戦した大学同士の順位のみが互いに入れ替わるものとする。

13. 学連役員の派遣

・男女１部の対戦に関しては、学連役員がコートレフェリーに入る。式次第に関しても、学連役員が行う。

14. その他

・男女１部校は原則に則らず進行する場合があり、その際は事前に別記して公表する。

・細部にわたる取り決めは対戦校同士の話し合いにより変更することを可能とする。

15. 規約の変更

・この規約は、学連幹部内で年に一回確認を行い、修正点があれば変更する。

注意事項

(前書き)

本年度全日本学生テニス王座決定試合東北地区大会は、本注意事項及び「JTA テニスルールブック 2026」に基づいて行う。(中にはいくつか内容の異なるものもあるが、それらは全て地区王座特別ルールとし、本注意事項の内容を優先する)。

試合をするにあたって、上記規約・　本注意事項を必ず読んでおくこと。

ペナルティーは選手を無意味に罰するものではなく、スポーツマンシップに則った試合を円滑に行うためのものである。

注：**あくまでもテニスの試合で決着をつけるものであって、ルール等を悪用しないこと。また、学連に問い合わせてきた内容を、大学名とともにノートに記録しておき、ルールの悪用をしていると判断した場合は学連より連絡する場合もあります。学連及び、大会参加者の対応方法については後に明記する。**

☆選手

・選手は、主審の判定に対して質疑をすることはできるが、質疑をすることによって事実問題の判定が覆ることはない。

・選手への飲み物等物資の持ち込みは必ずコートレフェリー(１部リーグ)、審判(２部リーグ)、を介すこと。いなければ、相手校に確認をとればよい。

☆コートレフェリー

・１部リーグに関しては数面に１人コートレフェリーがつく。

・コートレフェリーは原則として学連の１年生が担当する。しかし、人数が足りないのであれば２年生が担当するものとする。

・コートレフェリーは交代しても構わないが、ペナルティーや警告を出している場合はその情報を引き継がなくてはならない。

＊コートレフェリーの役割＊

・コートレフェリーには、常に中立的な立場で試合進行を見届ける責務がある。

＜コートレフェリーの仕事＞

・MTO、トイレットブレークに対応する

・物資の供給に関して許可を下す

・試合中に起きた問題に対する解釈に決定を下す

・必要があれば違反者にペナルティーを科す

・オーダーを学連本部に報告する

注：物資の供給はエンドチェンジ間に限る。

注：問題が発生した際の事実確認はコートレフェリーと主審、選手、ベンチコーチとのやり取りによってのみ行う(応援とは一切話さない)。

注：レフェリー達の話し合いにおいて折り合いがつかなくなった場合は、学連本部に連絡すること。また、連絡する場合はその試合を中断してから行うこと。

注：コートレフェリーは学連本部と連絡を取り合うことになるので、常時携帯電話を保持すること。

☆審判

・審判はすべて SCU とする。

・審判は問題に対する絶対的な決定権の所持者であり、審判が下した判定は決して覆ることはない(学連による決定を除く)。

・自信を持ち、堂々とした態度でジャッジを行うこと。

・試合中は常に中立的な立場で責務を全うする義務がある。

・選手からコートレフェリーとの話し合いを要求された場合、すぐにコートレフェリーを呼ぶのではなく、まず選手に対して理由を尋ねて確認する必要がる。(１部)

・コートレフェリーとの事実確認の際に、コートレフェリーからの質問に対してはっきりと受け答えをする義務がある。(１部)

・緊急時学連の承諾の上、主審を変えることができるものとする。(１部)

☆ベンチコーチ

・ベンチコーチに、監督、部長、OB、OG、異性の部員に加えて、コーチの参加も認める。
　ベンチコーチに入れるのは、各大学の関係者とする。

・人数不足であっても、監督、部長、ＯＢ、ＯＧ、異性の部員をベンチコーチに入れることは構わない。

・ベンチコーチは選手のウォーミングアップが始まる前までに入ること。(ウォーミングアップ開始後、最初のベンチコーチの交代のタイミングは、3 ゲーム終了後のエンドチェンジ間)

・エンドチェンジ間(各セット 1 ゲーム終了後、及びタイブレーク時のエンドチェンジを除く)、セットブレーク間、(両校の)MTO 間、相手のトイレットブレーク間、又は試合が中断している間にベンチコーチは選手にコーチングや治療の手伝いをすることができる。ベンチコーチ以外の人は、選手にコーチングやアドバイスができない(外部からの伝命,メモ等による伝達もできない)。

・ベンチコーチを入れることは各大学の権利であり、義務ではない。

・ベンチコーチの交代(退場)について、回数に制限はない。尚、ベンチコーチを交代(ベンチコーチが退場)してよいタイミングは、コーチングが許されているときのみとする。

ベンチコーチの退場は自由とする。途中からベンチコーチに入る場合、もしくは交代する場合はコートレフェリーと主審にその旨を伝えてから行うこととする。

・ベンチコーチはテニスシューズを着用することを義務とする。また、インプレー中は決してコートの中に入らないこと。

・ベンチコーチが暴言を吐いたり、認められないときにコーチングをしたりした際のペナルティーは、ベンチコーチに対する特殊なコードバイオレーションとして課され、1回目、2回目は警告3回目で強制退場となる(当該試合にベンチコーチなし)。対戦中に受けた警告は蓄積され、次の対戦時には消える。1度退場させられたら、その者は当該対戦中の全試合に於いてベンチコーチには入れない。

・セットブレーク間、トイレットブレーク間含め、ベンチコーチとして試合コートに入っている時に、コート外にいる人などと話す行為は一切禁止とする。違反した場合はペナルティーを科す。

☆応援

・応援とは、試合を盛り上げ、自校のチームを勝利へ導く為のものであり、拍手と自チームへの声援のみとする。よって、侮辱、野次、罵声を発する、ジェスチャー・器具を用いての相手校(選手・審判等)の心理を攪乱させるような行動及びプレーの妨げになるような一切の行為を禁止する(フラッシュ撮影等)。

・応援はむやみに選手に近づいてはならない。不用意に動く応援は下記処分の対象となるので注意すること。

・学生スポーツ精神に反し、良識を欠くとみなされる応援には、コートレフェリーが判断して処分する。不正な応援(パルチザンクラウド)に対する処分は、1回目が当該校全体に対して警告、2回目が当該対戦に於ける当該校の拍手以外の応援の禁止、3回目は当該対戦における当該校の応援を禁止、となる。対戦中に受けた警告は蓄積され、次の対戦時には消える。

・拍手のみの場合、手拍子や体を使ったパフォーマンスを禁止する。

・応援するスペースはコート選択権を持つ大学が両校で平等になるように決定する。

・歌応援に関してはその会場のルールに準ずるものとする。

☆ペナルティー

・タイムバイオレーション、ヒンダランス(妨害)は審判がとり、パルチザンクラウドはコートレフェリーがとる。コードバイオレーションは審判とコートレフェリーの両方がとることができ、審判がとった場合はその旨をコートレフェリーに伝える必要がある。

※コードバイオレーションは原則、1回目警告、2回目失ポイント、3回目以降失ゲーム（または失格）とするが、あまりにも酷い行為に対しては学連が判断して、1回目から失ポイント、失ゲーム、失格といった重いペナルティーを与える場合がある。これは、ベン

チコーチに対するコードバイオレーションも同様である。

☆使用コート

・使用可能コート面数が 3 面未満の場合は相手校、もしくは他のコートを手配して試合を行う。

・天候や試合進行状況に応じて、両校主将・主務の話し合いの上で使用面数を増やすことが望ましい。

・民間施設のテニスクラブ等で有料コートを借りたときは、必ず対戦校両校でキャンセル料を含め折半する。

・コートの所在地を事前に確認すること。各校の責任である。

・使用コートを当該校硬式庭球部で占有できる場合、全試合が終了するまで両校共会場内のコートでは練習してはならない。

注：コート選択権とは、「どこの場所で試合を行うかを選び、決めることのできる権利」である。必ずしも「自校の大学テニスコートで試合を行うことのできる権利」ではない。

☆使用ボール

・ボールは両校から供給する（一部リーグについては学連から供給する）が、その方法は両校主将・主務が話し合う。

・試合中のパンク・軟化・ロストについては審判が判断して処理する。

・新しいボールを使用し始めてから 2 ゲーム以内にボールをロストした場合はニューボールを、それ以降はセットボールを使用する。

☆オーダー交換

・出場選手は、オーダー交換の際に試合の行えるウェアを着用した上で整列しなければならない(ウォームアップ着用可)。

・オーダーに書かれている選手全員が整列していなかった場合、いなかった人の試合と、その人よりも保有ポイントが少ない自校の選手の試合に関しては全て負けとする。

・シングルスのオーダー交換はダブルスの試合終了後即座に行うものとし、片方の学校が整列しているのに関わらず 3 分経過しても整列出来ていない場合はシングルス全試合負けとする。

・開会式(ダブルスのオーダー交換時)のみ試合開始時刻になり次第、シングルスのオーダー交換、閉会式は両校部員が全員整列し次第、式次第を開始する。

・オーダー交換時にオーダー用紙がコート内になかった場合は当該試合を没収とします。

・出場資格を満たしていない者が出場していたことが発覚した場合は、試合終了後でも当該対戦に於ける全試合が不戦敗となる。オーダー順位は、上記規約第 12 項「オーダー規約」に基づく。

・オーダー順位の誤りが明らかになった場合、当該校はそのオーダーをオーダー規約に基

づき、当日のオーダー用紙に記載されている選手の範囲内で相手校の要求通りに変えなければならない。

・オーダー用紙に関して、選手の名前はフルネームで書く。日時等数字を記入する箇所は漢数字でも算用数字でも可。正式大学名に於いて略字は不可とする。また、オーダー交換の際の封筒の有無は問わない。

・入替戦においても、自校が所属する部を記入する。

・訂正箇所には 2 重線を引き、部印がそれにかかるように押すことによって訂正を認める(修正液の使用は不可)。オーダー交換終了後の訂正は認めない。

☆MTO(メディカルタイムアウト)

・プレーヤーは試合中の怪我や体調不良の治療のために、MTO をとることができる。治療には出場資格を有する者以外でも、1 名が携わることを認める(トレーナー資格の有無は問わない)。この 1 名は MTO の度に違う者に替わってもよい。つまり、MTO 時に選手の治療の手伝いができるのはベンチコーチと合わせて 2 人のみである。

・MTO は各部位 1 回までとする。

・MTO を取るタイミングは、座る前に審判に申請した場合に限り、そのエンドチェンジ及びセットチェンジに取ることが出来る。

・エンドチェンジ間での 2 度の MTO について JTA TENNIS RULE BOOK 2026 では「同時に 2 か所以上に怪我を負った場合、あるいは、体調が悪くなって同時に怪我をした場合は、レフェリーの許可を得れば、(同エンドチェンジ間で)2 回続けて MTO をとれる。」 と掲載されている。

＊筋痙攣の処置で MTO は与えられない。

☆トイレットブレーク

・トイレには、コートレフェリーがついていく。

・緊急時以外は、男女ともセットブレーク時にとる。

・緊急時は当該選手のサービスゲームの前にトイレットブレークを緊急処置と認める。

・トイレットブレークの余った時間は使うことができない。コートに戻り次第、すぐにセットブレークすること。

・トイレットブレークの回数に関しては「JTA テニスルールブック 2023」に準じる。

☆雨天の際の処置

・試合前日または当日の朝が雨天の場合、代表者(学連(１部)、コート選択権保持校(２部以下))がコート状態を見て、試合が可能か不可能かを判断する。不可能と判断した場合は必ず代表者が学連に伝えること。

☆日没・雨天時の際の処理

・日没・水没による中断は学連が判断する(１部)か、各大学間で話し合って決める(２部以下)。中断するタイミングは第一にセットブレーク間、次に偶数ゲーム終了後、間に合わなければエンドチェンジ間やポイント間で止めること。

・中断した時点で、必ずコート選択権所有校の代表者は途中経過を学連に報告すること。

・中断試合の中断時刻及びサービスサイド・セット・ゲームカウント・ポイント等の記録・ボールの保管は、全て審判及び当該選手の責任とする。

☆２部リーグ以下の試合日程について

日程報告の義務

・試合日程については、両校で話し合い、学連が定めた期間内において試合を実施すること。

・試合日程が決定したら、要項で指定された形式で、事前に学連に試合日程を報告すること。

・雨天や災害等が起こった場合も考慮して、予備日についても試合日程と共に決定して、試合日程と併せて学連に報告すること。

・試合が予備週に行われる場合は、学連にメールで別途報告すること。

試合延期の場合

・何らかの理由で試合が正規日程で行われなかった場合(事前に両校で定めた予備日に実施することになった場合やその他の変則的な試合日程延期があった場合)、直ちにその旨を学連へメールで報告すること。

☆試合結果の報告について

１部リーグ

・試合終了後、審判又は SCU が直ちに大会運営本部へ報告すること。

２部リーグ以下

・試合が終了したら、期日内に、指定された形式で学連に結果を報告すること。尚、報告の期日や報告形式は大会要項で明記する。

☆異議申し立て及び、処罰について

・本冊子及び、ルールブックに記載されている事項に違反した場合、または違反していると申し出があった場合、学連が対象となる大学の関係者に事情を聞き、学連役員で罰則を検討し、学連役員間でその可否を取ること。

・違反に関して学連に異議申し立てをする場合は、当該行為後、早急に学連のメールにて申し立てを行うこと。

☆お問い合わせ先

・上記規約や注意事項に関してや地区王座に関して質問等がございましたら、下の東北学

連のメールアドレスまでお問い合わせください。

：tohoku.gakuren.tennis@gmail.com

・ただし、緊急の連絡の場合はメールではなく、幹事長もしくは IT、レフェリーの電話番号に連絡をしてください。よろしくお願いします。

・結果報告や日程報告、異議申し立て等の学連への正式な報告を学連役員の LINE やメッセージで行うことを禁ずる。正式な報告は学連メールや指定された形式でのみ受け付ける。